

新宿連絡会 News

新宿連絡会（新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議）発行

〒111 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付

☎03-3876-7073/090-3818-3450

カンパ送り先：郵便振替口座00170-1-723682「新宿連絡会」

<http://www.jca.apc.org/nojukusha/shinjuku/>

vol.10 1999/4/21

正念場を迎えた自立支援センター開設問題

「俺たちはもう待てないぞ！」

昨年、東京都が「年度内設置」を確約したにもかかわらず、自立支援センターの開設は遅れに遅れています。全都野宿労働者統一行動実行委員会（全都実）は、全都越冬越冬闘争をやり切った力を糧に、「俺たちはもう待てない！」と声を挙げ、対策の早期実施を求める春の闘いを進めています。

この越冬期、冬季臨時宿泊施設「なぎさ寮」（300人規模）への入寮を希望しながら枠から漏れ、一度の入寮も果たすことのできない野宿の仲間が続出しました。「誰でも二週間入れる」ことを宣伝文句にしていた都区の越冬対策は完全に破綻したと言えます。全都実の春季闘争は、この越冬対策の破綻を追及しながら、自立支援事業の一刻も早い実施をたぐりよせていくことをめざして、開始されました。

3月15日、16日、全都実は特別区人事厚生事務組合と東京都福祉局にそれぞれ越冬対策の改善を求めて申し入れをおこない、18日には、「地元の意向」を楯にセンター受入れを事実上、拒み続けている台東区への行動を180人の仲間の結集でおこないました。台東区庁舎を包囲しての抜き打ちデモをやり切った後、区福祉課との団体交渉では、福祉課長から「センターの本格開設に向けて努力する。それまでのつなぎとしての既存施設の活用も5、6月には開始したい」という言質をもぎ取りました。

そして4月15日には、センター候補地に近い上野でのデモをおこない、330人の仲間の大結集をかちとることができました。5月1日の恒例のメーデー行動では、さらなる仲間の結集をかちとり、「野宿から脱することのできる対策の推進」を求める仲間の声をさらに社会に響かせていきたいと思えます。

ふざけるな！新宿区 怒りの連続抗議行動

現在、新宿連絡会は全都実の一員として、センター早期開設を求める運動に力を注いでいます。330人が集まった4月15日の上野デモには、新宿からも150人の仲間が参加し、翌16日の都庁前行動（センター開設を求める座り込みと情宣活動、代表者による申し入れ）にも新宿からやはり150人の仲間が参加しました。（全体では220人）「対策推進」を求める仲間の声は日増しに大きくなってきています。

しかし、そうした仲間の声をふみにじるがごとき、とんでもない言動を地元・新宿区がおこなっていることが明らかになりました。

野宿者急増の現実を踏まえ、国は厚生省と労働省が中心になり「ホームレス問題連絡会議」を今年2月に発足させました。この「連絡会議」には、東京都・横浜市・川崎市・名古屋市・大阪市の五大都市自治体の他、新宿区も区レベルとしては唯一、参加しています。現場を知っている自治体が国を突き上げて福祉対策や就労対策を促進させ、現実には野宿を強いられている仲間の利益になるのであれば、大いにそれを歓迎したいと当初は私たちも考えていました。

ところが新宿区が3月9日、自治体

の意見として国に提出した「要望」は、「強制排除を容易にする法整備」であるとか、「生活保護法の現在地主義を見直して、住所不定者は出身地の福祉事務所でのみ受け付けるようにする」といった地域のエゴを丸出しにしたものであることが発覚しました。要するに「ホームレスは排除して、福祉の窓口でも追い返し、田舎でもどこでも行ってしまえばいい」「都市部の自治体はもう何も負担したくない」という非論理的な感情論をそのまま出したものだったのです。

「新宿から出ていけ」と言うに等しい新宿区の暴論に仲間の怒りは沸点に達し、3月19日の質問状提出を皮切りに対区集中弾劾行動が開始されました。3月19日と26日の区福祉課との団体交渉には170人の仲間が結集し、新宿区役所二階のフロアを埋め尽くし、福祉課長を追及しました。福祉課長は「あれは財政的・人的に厳しいという新宿区の悲鳴だ」「金を出してほしいというのが本音だが、それだけだと淋しいので」という訳のわからぬ釈明を繰り返すのみで、なぜ法改悪を主張するのか、という点を一切説明しませんでした。こんな答弁に納得できない連絡会は、4月2日に再び要望書を提出、年度が変わって新しくなった福祉課長との団体交渉を9日に設定しました。

4/9 対区団体交渉

新課長を徹底追及

4月9日には、連絡会5年間の対新宿区闘争史上最大の230人が結集し、新課長との団体交渉に臨みました。ロボットのように同じことを繰り返し、煮え切らない新課長にいらいらさせられながらも、集まった仲間は新課長を粘り強く追及し、「対策推進の姿勢は変わらない」「『排除先がありき』ではないし、排除の予定もない」ことを確認しました。また「要望」の真意についても「もう一度、区内で検討し直す」ことを約束させました。

「生活保護法の現在地主義見直し」については、厚生省がすでに見直しをしないことを明言しており、新宿区の「要望」は国からも一笑に付されたようです。しかし今回の問題は新宿区が「うちはもう負担したくない」という本音をもらしたものだと考えられます。国が動き出したからと言って、自治体が従来おこなってきたことを投げ出すのは許されるわけがありません。今後も連絡会は新宿区が「対策推進」という従来姿勢からはずれ、行政としての責任を放棄しないよう、監視の眼を一層強めていきたいと思えます。

日常活動の記録

*日曜夜の新宿パトロール

パトロールで出会った仲間の数は以下のとおりです。

2/21 521、2/28 567、3/7 570、
3/14 622、3/21 622、3/28 598、
4/4 594、4/11 684、4/18 632

例年、日雇いの仕事が増えて人数が減る年度末も今年は人数が減りませんでした。仕事不足はますます深刻化しています。

毎週水曜夜には高田馬場のパトロールもおこなっています。

*全都実パトロール

越冬期間中は、全都実として毎週水曜夜に池袋、金曜夜に東京駅周辺のパトロールを行ってきましたが、池袋では地元の仲間が多くパトロールに参加し、自主的に福祉行動に取り組むようになり、4月以降も毎週、継続してパトロールをおこなうことになりました。こうした池袋の仲間の立ち上がりを連絡会は全面的に支援しています。4/21には池袋の公園で、この間亡くなった仲間を追悼し、池袋の仲間の団結をかためるための「寄り合い」も開かれます。

一方、東京駅周辺のパトロールも随時おこなっています。

*毎月第2月曜の医師による医療相談

3/14 34人相談、11人に紹介状

2/14 22人相談、6人に紹介状

医療相談、福祉行動を通じて入院する人も増えています。入院した仲間との連絡用として、テレホンカード（途中まで使ったものでかまいません）のカンパをお願いしたいと思います。山谷労働者福祉会館気付「新宿連絡会医療班」あてにお送りください。

訂正：上記の「医療相談」の項目「第2月曜」

→「第2日曜」「2/14」→「4/11」

全都野宿労働者統一メーデー

屋根と仕事をよこせ！自立支援センターの早期開設を！

今年も都内各地から野宿労働者が新宿に集結し、未来をたぐり寄せるための闘いに取り組みます。「自立支援センターの開設」に向けた最終コーナーをこのメーデー行動の成功をもって突き進んでいきたいと考えます。

5月1日（土）正午 新宿区立柏木公園（新宿区西口徒歩5分）集合
午後1時 都庁に向けたデモ出発（中央公園解散）

主催：全都野宿労働者統一行動実行委員会

<構成団体>

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）

渋谷・野宿者の生活と居住権をかちとる自由連合（渋谷のじれん）

山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委（反失業）／日雇全協・山谷争議団

新宿連絡会「政策提言」刊行へ！予約受付を開始！

国による「ホームレス問題連絡会議」の設置により、ついに「ホームレス問題」は国政の場で論じられることになりました。ところが「連絡会議」の中では、新宿区などが「強制排除を容易にする法整備」を主張するなど、野宿者の現状を踏まえられない意見が自治体側から出され、こうした人権無視の暴論が国の施策を規定していく危険性も一部では指摘されています。

私たち新宿連絡会は、今こそ野宿の当事者が何を求めているのかを社会に提示していく時である、と考え、この間、仲間へのアンケート調査を実施して、議論を重ねてきました。そしてこの度、連絡会の主張の集大成として「『路上生活者問題』に関する見解と政策提言1999」（仮題。以下「政策提言」）をまとめ、5月中旬に刊行いたします。

この「政策提言」は、私たちが5年間の現場での活動、行政との闘いの中でつかんだ「確信」を形にしたものでもあります。一人でも多くの方々に手に取っていただけるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

「政策提言」（A4版約60ページになる予定）の予約受付を開始します。ご希望の方は「政策提言 ○冊」と明記の上、下記の郵便振込口座に代金をお振り込みください。5月中旬までに郵送いたします。

*郵便振替口座 00170-1-723682「新宿連絡会」

*代金（送料込み）：1～5冊の場合、900円×冊数、5冊以上の場合、800円×冊数+500円